

(令和6年度) 自己評価書		園番号	園名					
		807	都南保育園					
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅰ 保 育 活 動 に 関 す る も の	(１) 保育 目標/計画	① 保育目標の設定	・子どもの実態を把握し、目標達成のため計画を作成し実践する。 ・全職員が保育目標を理解し全体的な計画や各年齢の保育計画に基づき保育をすすめる。 ・保護者に園評価アンケートを実施し、保育活動の検証を行う。	・保育目標を達成するために、教育ビジョンを打ち出し、職員全体で共通理解することができた。 ・子どもの姿を捉え一人一人に応じた保育に取り組んだ。 ・保護者に園評価アンケートを実施し、保護者から肯定的な評価を得ることができた。	a	B	・園目標や保育計画に基づいて、子どもの生活や遊び、行事に保育目標を達成できるように取り組むことができた。 ・保護者の園評価アンケートから肯定的な評価をいただくことができた。	・子どもの実態を把握し、今年度の課題を次年度に引継ぎ途切れない保育を実践していく。定期的に会議を持ち、職員全体が共通理解、共通認識し、同じ思いで実戦していけるようにする。
		② 保育計画の作成			b			
		③ 全体的な計画の編成			a			
		④ 保育活動の評価			b			
	(２) 保育 内容/指導	① 指導計画の立案	・研究主題に基づいた保育内容の改善、主体的に活動ができる環境や援助のあり方を探り実践し振り返りを行う。 ・公開保育・園内研修を実施し他園の評価・指導を受けたり職員間で保育内容や環境構成について意見交換を行い、改善を図る。	・研究主題を設定し、乳児・幼児会議の中で主体的・意欲的に遊ぶことが出来る環境や援助のあり方を話し合い実践と振り返りを行った。 ・園内公開保育を実施し、環境構成や援助について課題を出し合い見直しを図った。 ・他園の公開保育や研修等での学びを職員に伝えたり実践に活かせるよう努力し	a	A	・会議や園内公開保育の場で、環境の見直しを行ってきた。職員間で共通認識し子どもの発達や関心に目を向け環境を変化させていたことで、子どもが興味を持ち意欲的に遊ぶ姿につながった。	・環境については話し合いを重ね改善実践を継続する。援助については、職員一人一人の認識に相違が見られるのでその都度確認する必要がある。
		② 保育内容の精選			a			
		③ 指導方法の工夫改善			a			
		④ 評価			b			
	(３) 園行事	① 指導計画の立案	・特色のある園行事の精選と実践 ・行事の目的や内容については、子どもが主体的に取り組む豊かな経験ができるようにする。 ・園、家庭、地域がつながることができる園行事を構築する。	・職員間で共通理解し、園内行事については行事の担当者を中心に企画・運営を行い進めることができた。 ・地域との交流も復活し、ひまわりクラブ、児童館、小学校の方々と触れ合うことができた。	a	A	・子ども達は、様々な行事を経験する中で、友達とかかわりながら、成長する姿が見られた。児童館に行く機会が増え児童館との交流が深まっている。子ども達はそれぞれの行事を楽しみ、また次への期待につながっている。	・子ども達を中心に行事の企画運営を行うことが出来、子ども達が楽しく参加できて良かった。保護者の方からも行事に関する肯定的な感想をいただいている。次年度は、さらに見直ししながら子ども達がより豊かな経験ができるよう取り組む。
		② 行事内容の精選			a			
	(４) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・家庭支援推進保育士を中心として、人権教育指導計画を立案し、取り組みをすすめる。 ・一人一人の家庭状況や生活背景を把握し、子どもや保護者にかかわる。 ・一人一人を大切にする保育の視点にたち人権意識を高められるような取り組みを推進する。	・日頃から職員間の情報共有を行い実態内容や対応について話し合うことができた。 ・家庭支援推進保育士を中心として、『平和のつどい』『仲間のつどい』に取り組み、また東市小学校や横井支部との学習会を行うことができた。	a	A	・一人一人を大切に保育し、子ども達にとって安心安全な保育園であるかどうか。 ・職員間で情報共有を行い、関係機関とも連携をとりながら、安心安全な保育園になるよう努めた。	・今年度の取り組みを次年度に引継ぎ、保護者、地域、関係機関と情報共有しながらすすめる。
		② 保育内容の精選			a			
		③ 指導方法の工夫改善			b			
	(５) 生徒指導 (園児の豊かな人格形成)	① 組織的な指導	・些細なことも報告・連絡・相談を密にする。 ・子ども、保護者の思いに寄り添う。 ・常に家庭との連携を密に図る。 ・関係機関との連携を密にとり情報共有を図る。	・関係機関と連携しながら必要な支援や援助を行った。 ・日頃から登降園時に子どもや保護者に声をかけ、相談しやすい関係が構築できるよう努めた。 ・虐待が疑われる状況がある場合、関係機関と連携を図り迅速な対応を行う。 ・家庭支援推進保育士が地域や学校と情報を共有し地域ぐるみの支援を行う。	a	B	・迅速な対応、組織的な対応、職員間の連携が図っている。 ・保護者と信頼関係を構築し子どもについて情報を共有できている。 ・保護者対応について保護者と職員の間で思いが相違することがあった。 ・子どもの様子について職員間で常に情報交換し、気になる実態について複数の職員と確認したり、保護者や関連機関との連携など迅速に対応してきた。	・配慮が必要な子どもや保護者への適切な対応を継続する。 ・保護者との信頼関係が深まるよう、日々の声掛け、関わりを大切に積み重ねる。保護者からの発信がないから大丈夫なのではなく、常に保護者の思いに寄り添い変化に気づけるようにする。 ・引き続き情報を共有し配慮が必要な子ども、保護者への適切な対応を継続する。
		② 教育相談・幼児理解			b			
		③ 家庭との連携			b			
		④ 関係諸機関との連携			b			
⑤ いじめ・児童虐待問題について		・各学級の状況を園組織として共有できている ・保護者や地域と連携できている ・組織的に迅速に対応する体制が整備されている			a			
(６) 特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	・特別支援を要する子どもを中心としたクラス運営を行う。 ・一人一人の課題を明らかにし具体的な指導方法を共通理解する。 ・保護者の思いや考えを尊重しながら進める。 ・関係機関との連携を図り、一人一人に応じた適切な援助を行なう。	・支援を要する子どもについて、全職員で共通理解しかかわる。 ・特別支援教育コーディネーターと連携を取りながら個別の支援計画をたて保育内容に繋げた。 ・専門機関にかかわってもらい具体的なアドバイスを得る機会を持ち、子どもの理解・環境構成と支援方法等について学ぶことができた。	b	A	・保護者との信頼関係の中で発達相談を受けることに繋がられた。さらに子ども一人一人の支援について保護者と共に子どもの成長発達へと繋がるかかわり方・環境構成等について話し合うことができた。	・子どもや保護者の思いに寄り添いながら、一人一人の発達や特性に応じた関わりや、安心して過ごすことのできる環境構成の充実を図る。 ・職員研修の充実	
	② 個々に応じた特別支援教育の内容			a				
	③ 指導方法の工夫改善			a				
	④ 家庭との連携			b				
	⑤ 関係機関との連携			a				

自己評価書		807	都南保育園					
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(１) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	・教育方針や園経営について考えを明らかにし、リーダーシップを発揮する。 ・職員の適性を考えた配置を行い、一人一人良さを引き出し伸ばせるようにする。 ・職員間の意思疎通を図り、職場の人間関係を構築する。 ・保護者や学校評議会のアンケートの実施や自己評価を行う。	・会議等で職員間のコミュニケーションを図り、人間関係の構築につながった ・乳幼児保育の重要さと、子どもの遊びすべてが学びであることを、年間を通して伝えることができた。 ・園評価や保護者アンケートの実施により、園としての課題が明らかになった。	b	B	・子どもの遊びや研究主題に即した教育目標に取り組み、園目標を意識して日常の保育にあたっている。 ・職員が自分の立場を意識して役割を果たすことができた。	・年度当初に目標や方向性を明確に示し、人間関係を築きながら園運営が円滑に行えるようにする。 ・職員一人一人が園運営への参加を意識できるような働きかけが必要である。
		② 園経営目標・方針			a			
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			b			
		④ 園務分掌等の連携			b			
		⑤ 会議の運営と位置づけ			b			
		⑥ 会議の結果			b			
		⑦ 職場の人間関係			b			
		⑧ 園評価の実施			b			
	(２) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的計画的な園内研修の実施	・園内研修を実施したり、こども園会の研修への参加に努め、保育等指導や適切な援助のあり方を相互に研修し合い、保育実践に生かせるようにする。 ・園外の研修やリモート研修に自主的・意欲的に参加する。 ・園研究主題に即した園内研修を実施する。	・園内公開保育を実施し、カンファレンスを充実することで環境について学ぶことができた。 ・園外の研修やリモートでの研修に複数の職員が受けるなど意欲的に参加することができた。 ・研究主題のまとめに繋がる園内研修を実施し、職員自身が取り組みの意義や成果を振り返る機会となった。	b	B	・園内公開保育を計画的に実施することで保育改善に繋がる実践となった。 ・子どもの姿を分析・記述することで指導のあり方や子どもの発達過程を共通理解することができた。 ・リモートでの研修を積極的に受けられるよう啓発したり、環境を整えたりすることができた。	・計画的に園内公開保育を企画し保育の見直しが常に図れる環境を作っていく。 ・自ら研修の場を求めたり、オンライン研修も活かし、研修の機会を増やす。また研修したことを報告する場を定期的に設け、学びが園の実践につながるようにする。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			b			
		③ 園外の研修への積極的参加			a			
		④ 園外研修内容の報告や伝達			a			
		⑤ 研修成果の普及			b			
	(３) 安全管理	① 安全計画の立案	・避難訓練の計画を立案し、様々な場面を想定して実施する。 ・危機管理マニュアルを再認識し災害時は、迅速に行動できる体制を整える。 ・交通安全教室、防災教室、消火訓練を計画し実施する。	・年間計画に基づき、毎月の避難訓練を実施した。・緊急時、子どもの安全確保の為に職員の体制や、対処の仕方について話し合いを重ねた。 ・危機管理課や地域の女性防災クラブ、消防署と連携し、交通安全教室、防災教室、消火訓練を実施し子どもに防災についての知識を伝えた。	a	A	・園児に自分の身を守るための行動をわかりやすく伝えることに努めた。 ・様々な状況を意識し訓練を行い防災意識を高めることができた。 ・避難訓練の様子を毎回ドキュメントにして掲示することで保護者への啓発につながった。	・常に危機管理意識を持ち、引き続き子ども達の安全対策について検討し、避難方法や避難経路、備蓄用品等、安全対策を共通理解し、臨機応変な対応ができるようにしていく。
		② 防災計画の立案			a			
		③ 危機管理体制の整備			b			
		④ 安全指導の工夫改善			a			
		⑤ 家庭との連携			a			
		⑥ 関係機関との連携			a			
	(４) 保健管理	① 保健計画の立案	・健康安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう、家庭と連携しながら指導に努める。 ・日々の健康観察を行い、心のケアが必要な子どもや保護者については全職員で共通理解し対応できるようにする。 ・アレルギー対応を徹底する。 ・栽培活動を通して、野菜が育つ様子に興味を持ち、様々な食物への関心を広げる。	・保健指導や健康管理に努め、手洗い・うがい等子どもの年齢に応じた必要な習慣が身に付くようにした。 ・食事提供については、衛生管理・アレルギー対応等職員間で十分な情報確認・共有を図りながら日々安全な提供に努めた。 ・栽培活動で収穫した野菜は、給食で提供することで、食べることの喜びや意欲につながった	a	B	・個別に支援の必要な家庭が多く、登降園時保護者とのコミュニケーションの中から生活環境等を把握し、担任・家庭支援推進保育士で連携しながら対応していく。	・園児・保護者・職員の健康・安全管理を常に心がけ、普段からコミュニケーションをとれるよう留意していく。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備			b			
		③ 健康観察、健康管理能力の育成			b			
		④ 関係機関との連携			b			
		⑤ 昼食の衛生管理			a			
	(５) 地域との連携	① 園情報の発信	・地域の会合や催しに参加し、園の取り組みについて伝え、理解していただけるようにする。 ・保護者、地域、小学校、中学校との連携に努める。 ・地域の会議や地区の社会福祉協議会等の会合に参加し、連携を深める。	・園の様子をホームページで発信し、保護者や地域との連携に努め、園の保育・教育の理解に努めた。 ・地域、児童館、小学校、中学校、こども園と連携を図り行事に参加したり、交流会や学習会、奨励会議で情報を共有し相互理解に努めた。 ・地域の行事や会議に参加し、信頼関係を深め、園に協力をいただける関係の構築に努めた。	b	A	・園の保育内容や活動の様子を適切に情報発信できているかどうかを、常に確認し見直しながら進められたかどうか。 ・関係機関と情報交換を行い、園運営に活かしていくことができた。	・園の保育内容や活動の様子を定期的にホームページやドキュメントで発信できるよう計画を立て実行する。 ・関係機関と情報交換を密に行い、今後も継続して連携を図る。
		② 園(保育)公開			b			
		③ 小学校との接続・連携			a			
④ こ幼保との連携		a						
⑤ 保護者会の活性化		a						
⑥ 地域との行事、会議等		a						
(６) 施設・設備	① 保育環境の整備	・園内環境の整備と有効活用 ・施設点検を行い危険・改善箇所を把握し整備する。	・園内環境の改善・有効活用に努めた。 ・毎月安全点検の実施を行い不備な箇所は改善に向けて努めた。	b	B	・園内環境の改善・有効活用に向けた全職員の共通理解の機会を持つことができたか。	・全職員で保育環境の整備について共通認識を持つ機会をもち、一人一人が必要性を理解した上で積極的に取り組めるように働きかける。	
	② 施設設備の有効利用			b				
	③ 施設設備の管理			b				
(７) 情報管理	① 公文書の收受・保管	・情報管理について、全職員で共通理解をし万全を尽くす。 ・個人情報の取り扱いには十分に留意し、管理と保護は徹底して行う。	・個人情報の漏洩、紛失が起これないように細心に注意をするように全職員に注意喚起を図った。 ・記録媒体の持ち出しの管理を徹底する。	a	A	・情報漏洩対策、記録媒体の管理など職員の意識が向上したか。	・職員が常に危機管理を持って職務を遂行していけるように意識をさらに高めて行く。	
	② 公文書の作成			a				
	③ 個人情報の管理・保護			a				
	④ 情報の収集			b				
	⑤ 電子媒体の管理			a				